

薔薇につつまれたロマンの邸宅ー1

これほどの驚きと感動がこの屋敷の隅々に潜んでいるとは知らずに、5月の昼下がり、「K」邸を訪れました。

ここが「千葉県の住宅街」とは思えないほど、随所に欧米テイストが施され、ロマンティックで繊細でした。

家を取り囲む木々や草花と光が調和というより一体化して、森の中を自分の部屋にしてしまったようなお家です。

設計から施工を全てお1人の手で作り上げたという、とても驚嘆致しました。

屋敷内のどの場所に立っても全てが完璧に美しく考えられた構図で仕上げられ、そこには植物や鳥が住み、住む人の息づかいを感じる「生きた屋敷」といった印象を受けました。

木々の隙間からこぼれる初夏の木漏れ日が、家中のどの部屋でも感じることができ、生活する事の幸福感を味わう事ができそうです。

このお屋敷は1人の男性アイアンアーティストが13年の歳月をかけて作り上げた巨大な芸術作品です。

作者は、凡人離れした感性と、並外れた集中力でこのお屋敷を作り上げています。

才能と忍耐力のある方だのご想像できますが、またどれほどロマンティストで理想家なのか、お家を拝見する事でお分りいただけるかと思えます。

作者いわく、「完成形までの、今はまだ折り返し地点」ということですので、まだまだ数年間はこの邸宅の進化を楽しむ事ができそうです。

春の終わりに「モッコウバラ」初夏には「ナニワイバラ」が屋敷を取り囲みます。



屋上のバルコニーから室内最上階を覗くと窓辺にフクロウのスタチューがありました。屋根の上の「K」の文字は作者の頭文字のようです。